高明訓同窓

発行所
新潟市江南区北山1037番地
新潟明訓高等学校同窓会
会長　渡辺惇夫

綱領

一　母校愛精神の昂揚
二　伝統保持と敬愛
三　会員の連繋と相互扶助

ご挨拶

―同窓会と母校のさらなる発展を願って―

同窓会長　渡辺惇夫

日増しに秋の深まりを感じる頃となりました。同窓会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察し、心からお喜びを申し上げます。

常日頃は当同窓会の諸活動並びに母校の発展向上のために暖かいご理解とご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

お陰様で我が同窓会も多数の会員を擁し、年々活動実績を積み上げ、その存在感を増しつつあり、母校の発展とともに内外に高い評価をいただいておりますことは我々の大きな喜びであり、誇りでもあります。

このことは偏に会員皆様の変わらぬ母校愛と、日頃のご努力の賜物であるとともに、加えて学校ご当局をはじめ関係者の皆様のご支援とご協力があってのことであり、ここに改めて深く感謝の意を表する次第であります。

今後も我々は先輩各位の築いた輝かしい実績と母校の建学の精神を大切に継承しながら母校の卒業生としての誇りを持ち、同窓会発展のため努力していかなければなりません。

さて、ご承知のように我が母校は大正10年の創立以来、実に90年近い歴史を有し、他校に誇れる立派な伝統と実績を積み重ねて参りました。そして、今後の新しい時代に対応し、更なる発展を期すために創設された新潟明訓中学校も5年目を迎え、中高一貫教育も確実に実績をあげております。

又、最近の母校の在校生の皆さんの文武両道に秀でた活躍は、我々同窓生に対し新鮮な感動と勇気と自信、そして誇りを与えてくれており、感謝しております。特に部活動に於きましては、運動部、文化部とも全国レベルで大活躍をしており、中でもサッカー部の活躍は目覚しいものがあります。去る新潟県高等学校総合体育大会では、本校サッカー部としては11年ぶりの優勝を果たし、全国高等学校総合体育大会への出場権を獲得、新潟県最高位タイとなるベスト8進出を果たしました。その後に行われました北信越高等学校体育大会では新潟県代表としましては昭和63年以来、23年ぶりに新潟県に優勝旗を持ち帰るという偉業を成し遂げました。

この度のサッカー部の大活躍は、母校の名声を高めたことは言うに及ばず、その歴史に輝かしい不滅の一ページを記す偉業であり、我々同窓生一同に対しましても大きな自信と誇りを与えてくれました。心から感謝を致します。

今、我が同窓会としましても、この母校の大活躍に相応しい体質と拡充強化を求められており、それにむけての意識改革もまた必要とされております。

幸いにも我が同窓生には、年代を問わず多くの優れた人材が広く各界各層に於いて指導的立場で活躍しておられます。この多くの皆様から母校の現状を知っていただくとともに、大きな関心を持っていただき、互いに同志的意識を更に高め、協力体制を確立することにより同窓会の活性化と発展に繋げていかなくてはなりません。

先般も、役員会や常任委員会等に於きまして今後の同窓会のあり方や、発展の方向性を探り、協議を重ねているところであります。今後共ご指導とご協力を心からお願い申し上げます。

最後に母校のますますの発展と、同窓会の皆様の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

和の精神

理事長　伴昭彦

同窓会員の皆様にはお変わりもなく御元気で御活躍のことと心からお喜び申し上げます。東日本大震災や新潟県中越地方を含む豪雨禍が相次ぎ、猛暑や電力不足などがありましたが、一日も早く復興されることを願ってやみません。扨て、本校は施設設備も着々と改善し、卒業生の進学成績と共にスポーツや文化活動も益々活発となっており、誠に喜ばしいことと思います。

ただそれとは別に私達の毎日はそれぞれに楽しみや苦しみがありますが、それを穏やかに過ご

してゆけるのは人と人との和ということでしょう。和という字の左側の偏（ヘン）はノギヘンで、これは穀物であり、食物を口に入れて食べているという漢字だそうです。そして和の意味は御承知の通り、やわらぐ、たいらか、うららかなど帰するところは平静な心の状態をいいます。明の時代の洪自誠という人の著した菜根譚の中で、「荒天のときは獣や鳥たちも憂い懼れ、好天のときは草木も嬉しそうである、天地の間に一日も和気を欠かせないし、人の心にも喜び楽しむ和気がなくてはならない」という一節があるとのことです。いつもやわらいだ心でいたいということはどなたも思っておられることでしょうが、我欲・我執がいつも去来して尽きることがありません。元最高裁判所長官の石田和外氏は「脱科学的な東洋的思考に従えば、限りない自然創造の営みは、天地・陰陽・雌雄・男女等の対立を前提として、その完全な和合に因ってこそ初めて実現されるとしている。このように考えると、和こそ創造と進化の源泉といわねばならない」と言っておられます。

　自然の姿を見ると、すべてのものは対立しつつ調和しているように見えます。天体だけではなく、山川草木、鳥獣その他すべてのものが、対立しつつ調和しているように見えます。これは自然の理法であり共存共栄の原則でしょう。ところが人間は、対立はするけれども調和の心を忘れがちです。素直で謙虚な態度が和をもたらしてくらます。

　人間は十人十色といいますが、色々な性格があります。聖徳太子はその憲法第十条では、ひとのあやまちを無闇に咎め立てをしないようにせねばならぬ、何もかも一様に律するわけにはゆかぬからであるとされます。人間には身びいき身勝手から何でも自分が正しい、善だと考えますが、決して神でないのだからお互いに過ちも誤解もあり得る。この場合に人間には言葉があって、お互いの間柄をつなぎ人間社会の秩序を保ち、和気を生じさせることができるでしょう。

　もともと人は孤立しては生存することもできず、相依り相集まって社会を形成し、その中で相依り相扶けることによって繁栄発展を続けて今日に到っております。真に世のため人のため、自己の一切を投入して懸命に活動することに生きがいを感じ、和の祈りの中に静かに瞑目してゆけることこそ人間の幸福でしょう。人間にとって尊いものは和の精神であると考えます。皆様も和の心で御活躍下さい。

覇気

学校長　野本憲雄

　今年は災害が多い。三月の東北沖太平洋地震、七月末の福島・新潟豪雨、九月の台風十二号に伴う豪雨による紀伊半島を中心とした大災害と続いている。大変な年である。被災された方々には、何と申し上げたらいいか言葉もない。

　改めて、大物理学者長岡半太郎の「自然に人情は露ほどもない」、「自然に抗する者は容赦なく蹴飛ばされる」という言葉を噛み締めている。

　わが国は、今から六十六年前、戦死・空襲による死者二百二十万人超、完全破壊建物二百五十万超、広島、長崎の原爆投下を受けて疲弊しきって敗戦を迎えた苦い経験がある。

　戦争の末期には、中学校（旧制）の上級生（現在の中学生、高校一、二年生）といえども、もはや平穏に学校生活を送ることなど許されず、工場等に学徒動員され、油まみれになって「欲しがりません、勝つまでは」の精神で銃後の守りの一翼を担っていた。

　そして、敗戦。想定外の負け戦に直面した彼らの虚脱感、不安感等の大きさは想像して余りある。

　しかし、このような困難な状況下にも拘らず、戦後の教育の立ち上がりが早かったことには、本当に驚いてしまう。本県では、九月一日にはもう始業式が行われている。

　ある中学校の始業式で校長は、

　「戦争により、諸君はペンを捨てて工場で働き、ために学力が低下した。これより本腰を入れて勉学に励み、おのおの相当学年以上の学力を取り戻さなければならない。いまや国家が諸君ら青年に期待するところは甚だ大きい。先ず、学問を究め、道義心を高め、勤勉力行、沈着冷静、合理的な処置を施してゆく、この五項目を指標に新たなる学期を踏み出すこと」と、訓示している。

　これに対して、上級生が、

　「自分たちは学問からは離れていましたが、得たものも少なくありません。戦争の敗因がよく分かりました。設備や技術の貧弱さ、工員の道徳心欠如などです。これらを是正し、決して前者の轍を踏まぬように勤めるのが、この後自分らの使命だと思います。今度の敗戦と言う屈辱を文化程度の向上で報復すべく決意を固めました」と応えている。

　何という「覇気」と吃驚してしまう。

　戦後、わが国の復興を担った宰相吉田　茂さんは、後年、「戦後日本を復興できたのは、塗炭の苦しみの中でも暴動・略奪を起こさなかった日本人のモラルの高さと、教育水準の高さがあったからである」と書いておられるが、よく分かった気がする。

　わが国はいま、災害復興はもとより、経済はじめ様々な面で多くの難題を抱えている。

　昔も今も変わりないが、資源に乏しいわが国は人だけが頼りである。それだけに、今も若い人達に期待するところは大きい。

　「明訓」にご縁を頂い

た身として、好学自治の精神と高邁な道義心をもった、覇気ある「明訓生」を育むことに、全力を尽くそうと心を新たにしている。

関西新潟明訓会総会・「設立20周年記念総会を開催」

関西新潟明訓会平成23年総会が10月1日（土）午後12時30分より大阪市都島区網島町の「太閤園」で開催されました。

同窓会本部からは渡辺同窓会長、大倉副会長、首都圏からは秋葉会長が出席。学校からは野本学校長が出席され、総勢24名での開催となりました。

総会は本間会長のご挨拶ではじまり、来賓祝辞として渡辺同窓会長、秋葉首都圏会長、そして野本学校長からは、躍進する母校の学業、部活動、施設整備など近況についてお話をいただきました。その後、議事に入り、井嶋幹事から会務報告、会計報告が行われ、平成23年度の予算（案）と共に承認されました。

総会終了後の懇親会では皆さん時の経つのも忘れ楽しいひと時を過ごしました。終わりに、今回初参加で平成5年夏の甲子園メンバーである関さんの音頭で声高らかに校歌を斉唱し、名残惜しみつつ閉会となりました。その後、有志十数名で場所を変え更なる親交を深めました。

関西新潟明訓会は、設立20周年を迎えました。今年は初参加の方が2名、女性会員も5名の参加があり、少しずつではありますが会員の輪が広がっています。これからも更なる会員の掘り起こしを行い、平成卒業世代に継承していかなければなりません。関西圏にお住いの同窓生の皆様、是非一度ご参加ください。お待ちしております。

新潟明訓高等学校同窓会ではホームページを開設しており、昨年、交流掲示板も新設しました。これらの有効活用は今後の会員掘り起しの一助となると思います。是非、ご活用下さい。

本間会長挨拶

出席者全員で記念撮影

第23回首都圏新潟明訓会総会・懇親パーティー開催

首都圏新潟明訓会第23回総会・懇親パーティーが平成22年11月14日（日）銀座日航ホテルで開催されました。

開始30分には、すでに大勢の方々が集まり楽しげに歓談していらっしゃいました。

新潟から持参した「野球部の夏の甲子園大会ベスト8の模様」「母校体育祭」の様子をまとめたDVD（放送部作）が放映され、その感動を改めて思い出し、〝明訓の今〟を謳歌している後輩達の姿をまぶしく鑑賞していました。

定刻に鈴木　浩・奥田まゆ子（ともに昭和46年卒）両氏の司会により総会が始まり、秋葉正樹首都圏新潟明訓会会長（昭和46年卒）の挨拶に続き、役員（案）が満場一致で承認されました。

懇親会に移り、来賓の伴　昭彦理事長の挨拶。母校野本憲雄学校長の挨拶。関西新潟明訓会阿部邦義副会長の挨拶。公務出張のため欠席の渡辺惇夫会長に代わり副会長林の挨拶。

藤間健彦顧問（昭和26年卒）の音頭で乾杯、歓談へと進行されました。

本部から持参の「越の寒梅」を酌み交わしての歓談途中には、ジャズボーカリストの熊倉由美さん（昭和56年卒）によるジャズタイム。

恒例の幹事の景品提供による福引では野球部の甲子園出場を記念して本部からも「甲子園グッズ」が提供され、大いに盛り上がりました。

また、12月に行われる全国高等学校駅伝競走大会に新潟県代表として2年連続出場の決まった陸上部女子駅伝チームへの支援金を募ったところ、出席された方々から健闘を願った多額の支援を、いただくことができました。

終わりに、今回初参加の平成卒の方々3名の紹介。大嶋　哲幹事（昭和46年卒）指揮のもと、校歌斉唱。今回参加者最年長者鎌田甚四郎さん（昭和18年卒）の中〆。

参加者56名。充実した時間をすごした満足感で、「来年も元気な姿で再会しよう」を合言葉に散会しました。

秋葉会長挨拶

伴理事長挨拶

懇親パーティー風景

新潟明訓高等学校

第五回（昭和二十九年）卒業生 喜寿を祝う会

我々明訓高校第五回卒業生（昭和29年卒）は今年「喜寿」を迎えますので記念の同期会「喜寿を祝う会」を企画し案内を出しましたところ、40名の参加がありました。ここに会の一部をご報告させて戴きます。

まず幹事5名を定め、会場は幹事長田村君が親しくしている月岡温泉「華鳳」の女将さんの特別なはからいで、特別価格で宿泊出来る事になりました。ただし期日は5月9日の連休明けに決まりました。

当日集合場所の新潟駅南口には、宿のバスに乗る30人が集合し、久しぶりの顔もあり、ハグしたり、あく手したり大変でした。宿に着いて、自家用車組と合流し、割り当てられた部屋に落ちついてから5時30分に宴会場に集合、記念撮影を行い、開会いたしました。

初めに同期物故者の報告と東日本大震災の物故者及び行方不明者に対し黙祷をささげました。

会幹事長よりこのように多数の参加者があったお礼の開会挨拶があり、乾杯の音頭を県外より参加の池原君がとってくれました。宴会は最高の雰囲気で盛り上がり、最後に校歌を唄って一次会を終えました。

宿のはからいで二次会場へ移り、新潟より持参の地酒や、その他各種飲料に囲まれて、とても76才の老人と思えない飲みっぷりに驚くばかりでした。初参加の2組のご夫人も、皆様と一緒に、つぎつがれつ過ごされていました。終わったのは12時頃でした。

翌朝食時、あれだけ飲んだ後なのだから、二日酔いがいるのではないかとあたりを見まわしても、皆さんパクパクおいしそうにおかわりをして食べているのを見て我々同期の老人パワーのすごさを感じた次第です。

帰りは、皆様車中歓談され、駅南口到着後は次回の再会を約し解散しました。

会終了後の感想としては、我々はこの年になってもまだ皆さんすごいパワーを持っていること。同期として最高の親しみを持ち続けている誇りでしょうか。

（児嶋記）

明訓中学校卒業一期生（高校一年生）
―海外研修（カナダ）記録―

昨年十月、高一Ⅳコース（明訓中卒一期生）は、十四日間のカナダ研修を実施しました。帰国後、多くの生徒が「いつか自分の力で海外に行きたい」と語りました。新潟では経験できないグローバルな社会を体感し、大きく成長する機会でした。

ホームステイ中は生活様式や食習慣など毎日が驚きの連続だったようですが、すぐに順応していました。平日は現地の高校に通学し、英語の授業のほか、カナダの文化を体験する様々な活動をしました。日本語を学ぶ学生との交流、書道や茶道、折り紙などを紹介する時間もありました。異国の地で日本文化を誇らしげに紹介する明訓生の姿は逞しいものでした。週末は州都ビクトリアで自主研修を行い、博物館見学や食事など全て自分たちで計画し行動しました。

日本文化紹介

実生活でコミュニケーション手段として英語を使うことで、通じる喜びと通じない悔しさも経験しました。言語を磨くだけでなく、伝える「自分の考え」をもつ大切さを切実に感じていました。多様な民族が様々な言語で生活するカナダでは、外国人であるとと注目されることはありません。頼れるのは自分の英語と行動力。その中で、自己を見つめ、自分の力で生きることの意味を考えた二週間でした。

いまカナダに滞在中のⅣコース二期生も自分の世界を広げて帰国することでしょう。

集合写真（州議事堂）

トピックス

◎サッカー部

北信越高等学校体育大会 優勝！
全国高校総体 ベスト8進出!!

監督　田中健二

平素より、卒業生の皆様におかれましては、新潟明訓高等学校サッカー部に温かいご声援を頂き誠にありがとうございます。

さてこの度、第64回新潟県高等学校総合体育大会で本校サッカー部としては11年ぶりの優勝を果たし、全国高等学校総合体育大会への出場権を獲得いたしました。また、その後に行われました北信越高等学校体育大会では、昭和63年以来、23年ぶりに新潟県に優勝旗を持ち帰ることができました。7月末より開幕いたしました全国高校総体（北東北総体）には、大震災で大変な状況の中で試合をさせていただくことに感謝し、東北を始め、全国の方々に元気を与えられるような試合を行っていこうと部員一丸となって臨みました。一回戦から全国の強豪校と対戦することとなりましたが、生徒たちは臆することなく戦い続け、新潟県最高位タイとなるベスト8進出を果たすことができました。勝つことも勿論大切ですが、それ以上に、部員にはこれからの社会を担う人間として謙虚に礼儀正しく行動することを求めております。同窓会の皆様にも、誇りに思って頂けるよう、さらに努力して参りたいと思います。今後とも変わらぬ温かいご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

サッカー部主将　小島夏輝

私たちは今回インターハイでは全国ベスト8という結果を残すことができました。このような結果を出せたのも、私たちを応援してくださったすべての方々、そしていつも支えてくれださった方々のおかげだと感謝しています。今後、この結果に満足することなく、部員一同、力を合わせてがんばっていきたいと思います。

◎ダンス部

明訓ダンス部同窓会総会で県総体ダンスコンクールに於いて優秀賞受賞の演技を披露

ダンス部主将　二瓶梓紀

ダンス部は、現在1年生8名、2年生7名の計15名で活動しています。6月に行われた県総体ダンスコンクールでは、優秀賞を受賞することができました。そのほか、校内でのステージ発表、24時間テレビダンスセッション、野球部の試合でのスタンド応援、他団体からの招待出演など様々です。また今年は、体育祭のオープニングパフォーマンスや明訓高校同窓会総会での演技など、校内での披露の場も増え、忙しくも充実した日々を送っています。

8月に1・2年生だけで挑んだ全国大会では、予選は通過したものの、賞を受賞することはできず悔しい思いをしました。また、「全国大会」という大舞台で、チームの至らなさを痛感し、自分たちの課題を知る貴重な機会となりました。他チームもこの全国大会を機に3年生が引退し、完全に私たちと同じラインに立ちました。一年早くリーダー学年を過ごしてきた経験を存分に生かし、新たな気持ちで日々の練習に励みたいと思います。

また、「新潟明訓高校ダンス部」として舞台の出演について声をかけていただくごとに、チームの知名度が上がってきていることを実感します。知名度が上がるということは、それ相応の期待とともに評価が厳しくなることでもあります。しかし、それに応えることは、私たちにとって成長のチャンスであり、責任というものを強く感じます。その達成のためには、勉強との両立、部員同士の衝突、自分の甘えとの直面など困難はたくさんあります。しかし、ここまで残ったメンバーで一丸となり、ピンチをチャンスに変えながら、大きな壁を乗り越えたいです。そして、来年こそは全国入賞を果たしたいです。

◎吹奏楽部

西関東吹奏楽コンクールに於いて 銀賞を受賞

私たち吹奏楽部は、八月二日に行われた新潟県吹奏楽コンクール高等学校Bの部において金賞を受賞、新潟県代表に選出され、九月十九日に新潟市民芸術文化会館で行われた西関東吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を受賞することができました。

今年の五月ころからコンクール曲の練習を積み重ねてきました。練習の途中には明訓祭、高校野球開会式での演奏、野球部の応援、など忙しい日々が続きましたが、すべてにおいて手を抜くことなく、自分たちができる最高の演奏をしてきたつもりです。

コンクールで演奏した曲は真島俊夫作曲「三つのジャポニスム」です。この曲は、作曲者が日本的だと感じるものを、西洋的な楽器編成、音階、ハーモニーを使って表現した曲です。技術的にも大変難しく表現するのに苦労しましたが、全員で一つの曲を創り上げるために懸命に努力しました。

コンクールの練習を通して、私たちは仲間の大切さや、努力することの大切さ、そしてその努力が実ったときの喜びの大きさなど、たくさんの事を学んできました。吹奏楽は一人ではできません。一緒に頑張ってくれる仲間がいるからこそできたことです。私たちは吹奏楽部で素晴らしい仲間に出会い、その仲間と西関東大会のステージで演奏できたことを本当に誇りに思っています。

体育祭

今年は「ピンク連合が総合優勝」 新しいグランドで若さ弾ける

今年の体育祭は天候に恵まれ、日差しが厳しい中での体育祭になりました。また、グラウンドが今年から人工芝に変わり、生徒は人工芝の感触を楽しみながら競技や応援に全力を尽くしました。白熱した競技・応援の結果、今年は「ピンク・青・黒・黄」連合の中で、青連合が総合優勝に輝きました。また、応援優勝・最優秀連合旗賞・最優秀衣装賞は黄連合、競技優勝はピンク連合が勝ち取りました。中学生も高校生に負けず「赤・白」連合の戦いの結果、白連合が優勝しました。今年の体育祭はグラウンド工事によって各連合ともに練習がしにくい状況でしたが、例年に負けない最高の体育祭になりました。

連合対抗リレー

応援合戦

平成二三年度――明訓祭を終えて

平成23年6月11日開催

六月十一日（土）に盛大に行われた明訓祭。昨年より大幅に来場者が増えました。今年のテーマは『∞（インフィニティ・無限大）』～創造躍進～。その意味をふまえ、各クラス工夫を凝らした作品を発表していました。主な結果は次のとおりです。

☆明訓大賞
二年二組
「アデプト・クラス」
写真の小片を使って『最後の晩餐』を表現。

◎教室展示部門賞
三年十組

◎教室演劇部門賞
三年二組

◎ステージ部門賞
三年五組

◎門中庭アート部門賞
一年六組

◎奨励賞
二年十一組

◎パネル最優秀賞
三年三組

◎合唱コンクール最優秀賞
一年一・三組

◎中学校最優秀賞
三年生
「数学展示」

明訓大賞　2年2組「最後の晩餐」

学校案内

進学指導部

国公立現役121名達成

最近の入試状況と本校の概況

過去４年間の合格者推移

国公立大学	2008		2009		2010		2011	
	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
北海道	3		3				2	1
東北	6	1			1	1	3	1
山形	6	1	7	3	2	3	7	
福島	1		2		2		4	
筑波	3	2	4		1		4	
埼玉	1	1			1		2	
千葉	2		2		2		1	
お茶の水			1		1	1		
電気通信	1		1				1	
東京				1				
東京学芸	2		2				1	
東京農工					1	1	1	1
東京工業								1
一橋						2		
横浜国立	1		1		3			
新潟	55	11	56	6	58	9	36	12
長岡技術科学	2		1		1		3	
上越教育	1	1	6			1	3	1
富山	1	1	3	1	1		2	
金沢	2		3		3	1	1	
信州	5		4				2	
京都						1		1
高崎経済	3		1		1	1	10	
埼玉県立	1		1		1		2	
首都大東京	1		3	2	2			1
新潟県立			15	4	15	4	15	2
新潟県立看護	4		3		6		4	
都留文科					1		1	
その他	20	6	22	3	11	1	16	4
小計	121	24	141	20	114	26	121	25
国公立合計	145		161		140		146	

私立大学	2008		2009		2010		2011	
	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒	現役	既卒
早稲田	12	1	10	5	4	2	8	6
慶応	2	1	1	2			4	3
明治	10	7	19	5	13	4	13	3
立教	12	1	11	9	10	6	15	7
青山学院	4	3	6	5	1	1	9	4
中央	13	6	15	4	20	4	17	2
法政	10	12	13	11	12	4	10	5
上智						1		1
学習院	3		2		1		2	3
東京理科	6	4	5	2	5		3	3
東京農業	2	7	5	1	3	2	5	2
津田塾			1		2	1		
北里	5	1	4	1	5	2	4	1
芝浦工業	14	1	6		7	3	3	1
成蹊	3	1	6	2	2	1	4	4
成城	3		4	3	4	1	2	1
日本	23	3	37	11	28	15	28	4
東洋	17	3	9	10	10	5	18	5
駒沢	7	2	8	3	12	3	10	7
専修	18	1	10	3	20	1	11	3
明治学院	3	1	15	4	8	2	7	3
獨協							6	2
神奈川	13		19	4	18	1	9	4
新潟薬科	33	6	36	1	21		28	
同志社	3	2	2	1	4		5	1
立命館	13	2	5		3		5	2
関西	2		3		2		4	
関西学院	2		3		2		1	
その他	229	47	228	35	240	41	205	40
小計	462	112	483	122	457	100	436	117
私立合計	574		605		557		553	

全国の入試状況

昨年度のセンター試験は３年ぶりに平均点がアップしました。７科目受験者（900点満点）の平均点は一昨年と比べて文系で20.7点、理系で22.0点アップしました。

国公立大学入試は、センター試験の平均点アップのため、２次試験出願数が50.4万人と一昨年比1.5万人増となり、志願倍率5.0倍となりました。文系では初志貫徹、理系ではやや強気に出願する傾向になり、準難関校が激戦化しました。

私立大学入試は、センター試験の易化と不況の深刻化で、国公立大学志向と地元志向が強まり、私立大の併願公を減らす傾向が強まりました。

本校の入試状況

卒業者数379に対して国公立大学合格数121であり国公立大合格率は31.9％となり、過去６年間で２番目の合格率になりました。

全国の２次試験出願数は50.4万人で志願倍率は5.0倍、合格率20％であったのに対し、本校の２次出願数は180、国公立大学合格数は100で合格率は55.6％であり、推薦合格数21を加えると201出願のうち121合格となり、合格率が60.2％となりました。この結果は、学習に対する努力はもちろんのこと、センター試験の平均点アップに惑わされることなく、生徒個々の結果を現実的に捉え、合格の確率が高い大学を堅実に受験した結果であると思われます。また、難関国立大学合格数も、北海道２、東北３、筑波４と健闘しました。

私立大学入試では、全国の状況と同様で、センター試験の易化と不況の深刻化で、国公立大志向が強まり、私立大の併願校を減らす傾向が見らました。その結果、私立大合格数は436と一昨年比21減と若干減少していますが、現役の難関私立大学合格数は、早稲田８、慶応４、明治13、青山学院９、立教15、中央17、法政10、同志社５、立命館５など、減らすことなく私立大学でも健闘しています。

この結果は、２次私大対策講習の頑張り、最後まで諦めない粘りの姿勢を保てたことによると考えられます。現在現役生は最初の関門であるセンター試験を目指し頑張っています。同窓生の皆様も暖かい目で見守って頂きたいと思います。

修学旅行

8月24日（水）から3泊4日で実施された修学旅行は今年も残暑が心配されましたが、比較的涼しい気温の中、順調に日程を終えることが出来ました。1日目は広島原爆記念館と講話でした。講話では講師から女学校一年生で被爆した当時のことを語っていただきました。生徒たちは原爆の恐ろしさや悲惨さを知り、また現代の核兵器の状況や原子力発電の放射能の問題など今日的な問題にも触れ、人間の愚かさを痛感し、同じ間違いを繰り返さないよう、被爆者の思いを受け継ぐことを強く感じたようでした。

2日目は厳島神社へ早朝参拝した後、戦艦大和や戦場に赴く若者の遺品、大和から受け継がれた日本の科学技術を展示した大和ミュージアム、巨大な水槽で生物の多様性を目の当たりにする海遊館、豊臣家を中心に安土桃山時代の歴史を知られる大阪城、貨幣の歴史や鋳造の過程が見られる大阪造幣局、現代の科学研究や技術の先端を集めた情報通信研究機構やパナソニックセンター、世界の多くの民族品を収集展示してある国立民族博物館、日本の国際協力や海外派遣の意義や現状を理解できるＪＩＣＡ大阪、日本でも屈指の学問の府で講義を受ける京都大学の中の二カ所を訪問し、充実した研修ができました。

3日目は、京都市内をグループ研修をし、神社仏閣を訪れて自然との調和の精神で造られた京都の伝統文化を感得しました。また今回はタクシーでの移動であり、京都について造詣の深いベテラン運転手から多くを学び、楽しい時間を過ごしたようです。

最終日は、比叡山延暦寺と河村能舞台の二つのコースに別れました。延暦寺では、師に最初に一喝され、親の大切さ、自分を含めて現実をありのままに見つめることの大切さを説く法話が素直に心に沁みたようです。また能舞台では観劇を始め、謡を習ったり、楽器の説明を受けたり、舞台に上がり歩く所作を教わったりして幽玄の世界に足を踏むことができました。

このように、生徒たちは古典と現代文化の粋に触れ、今後の進路や人生を考える上で多くの示唆を受けたようでした。

河村能舞台　歩く所作を教わる

早朝の厳島神社

部活動報告

―各部目覚ましい活躍―

【運動部】

◎剣道部

《平成22年度春季新潟地区剣道大会
5月7日～5月8日
鳥屋野総合体育館》

・男子　個人
神保　祥太、大塩　和朗
多賀　貢、横山　大佑
県大会出場

・女子　個人　第2位
金山　桃子、川瀬奈菜香
渡辺　真央
県大会出場

・団体　男子　第3位
女子　第1位

《第38回　三条杯剣道大会
4月25日　三条総合体育館》

・女子団体　第2位

《平成23年度新潟県総体剣道大会
6月3日～5日
聖籠町町民会館》

・男子　個人
第1位　吉田　新
第3位　小林　和樹

・女子　個人
ベスト8　吉川　諒香

・男子　団体　第3位

・女子　団体　第2位

個人・団体北信越大会出場
個人（吉田）
インターハイ出場

《第32回北信越国民体育大会
剣道競技会　8月27日～8月28日
長野県大町市運動公園総合体育館》

・少年男子の部
団体戦リーグ
第1位　吉田　新
山口国体（本国体）に出場

◎陸上競技部

《新潟市陸上競技選手権大会
4月24、25日
新潟市陸上競技場》

男子

・円盤投げ
第1位　小岩　晴樹

・砲丸投げ
第2位　渡辺　吾人

・200M
第2位　大田　醇

女子

・200M
第3位　大津　祐子

《第60回中越陸上競技選手権大会
5月3、4日
長岡市営陸上競技場》

男子

・100M

第2位　大田　醇
・円盤投げ
第1位　渡辺　優斗
第2位　小岩　晴樹
・砲丸投げ
第1位　渡邉　吾人
第2位　池田　夏史

女子
・400M
第1位　馬場　渚子

《春季新潟・下越地区陸上競技大会
5月7日～5月9日
新発田市五十公野公園陸上競技場》

男子
・100M
第2位　中沢　史哉
・200M
第1位　大田　醇
・110MH
第1位　大田　醇
・400MH
第3位　大木健太郎
・4×100MR
第1位
石崎、大田、田村、中沢
・4×400MR
第1位
山本、荒木、大田、豊島
・円盤投げ
第1位　小岩　晴樹
第2位　渡辺　優斗
・砲丸投げ
第2位　小岩　晴樹

女子
・100M
第2位　近藤加奈恵
・200M
第2位　大津　祐子
第3位　近藤加奈恵
・400M
第2位　馬場　渚子
・1500M
第3位　渡辺　紗英
・4×100MR
第2位
寺尾、馬場、大津、近藤
・4×400MR
第2位
寺尾、馬場、大津、近藤
4位以下も合わせて29入賞
計33名県大会出場獲得

《平成23年北信越総体陸上競技大会
6月17日～19日
福井県運動公園陸上競技場》

男子
・800M
第1位　山本　雄翔
・110MH
第5位　藤嶋　郁磨
・4×400MR
第2位
田村、荒木、山本、渡辺
・砲丸投げ
第1位　渡辺　吾人
・円盤投げ
第1位　渡辺　優斗
・400M
第4位　渡辺　晃

女子
・1500M
第3位　横山　みわ
・3000M
第1位　横山　みわ
・400MH
第5位　寺尾　真理

以上9種目12名
インターハイ出場権獲得

◎野球部

《第122回北信越地区高校野球大会
新潟県大会　5月1日～5月2日
鳥屋野運動公園野球場》
5月1日
対　白根　7―0
（7回コールド）
5月2日　対　新潟工業
8―0（7回コールド）

《第122回北信越地区高校野球大会
新潟県大会　5月8日～5月11日
五泉球場・五十公野球場》
1回戦　対　糸魚川
10―0（5回コールド）
準々決勝　対　帝京長岡
7―0（7回コールド）
準決勝　対　高田
6―5（延長10回）
決勝　対　十日町
4―0
優勝

《第124回北信越地区高校野球大会
新潟県大会　4月28日～5月10日
鳥屋野球場・悠久山球場など》
2回戦　対　豊栄高校
15―0（5回コールド）
3回戦　対　五泉高校
0―6

《全国高等学校野球選手権
新潟県大会　7月9日～7月28日
ハードオフエコスタジアム他》
1回戦　対　新発田
8―1（7回コールド）
2回戦　対　六日町
6―4
3回戦　対　西新発田
6―1
4回戦　対　佐渡
3―2
準々決勝　対　県央工業
2―1
準決勝　対　白根
9―1（8回コールド）
決勝　対　日本文理
1―2（延長10回）
準優勝

《第125回北信越地区高校野球
新潟県大会一次予選
8月5日　神林球場》
対　村上桜ケ丘
7―2
対　新発田商業
6―0

◎サッカー部

《春季地区サッカー大会
5月6、7、8日
明訓高校鳥屋野球技場》
3回戦　対　高志高校
3―1
準決勝　対　新潟工業
1―0
決勝　対　新潟西高
2―2
（規定により両校優勝）

《平成23年新潟県総体サッカー大会
5月28日～6月5日
糸魚川市美山陸上競技場》
2回戦　対　見附高校
15―0　勝
3回戦　対　新潟高校
2―0　勝
準々決勝　対　長岡向陵
2―0　勝
準決勝　対　帝京長岡
2―2
（PK7―6）勝
決勝　対　北越高校
1―1
（PK4―1）勝
優勝
北信越大会・
インターハイ出場

《平成23年北信越総体第47回北信越
サッカー選手権　6月17日～19日
富山南総合運動公園》
準々決勝
対　上田高校（長野）
5―0勝
準決勝
対　富山第一高校（富山）
1―0勝
決勝
対　金沢桜ケ丘高校（石川）
1―0　勝
優勝

《第47回全国高等学校総合体育大会
サッカー大会　7月27日～8月3日
TDK秋田総合スポーツセンターほか》
1回戦
対　東久留米総合（東京代表）
1―0
2回戦
対　西目高校（秋田代表）
2―0
3回戦
対　大津高校（熊本代表）
2―1
準々決勝
対　流通経済大付属柏
（千葉代表）
0―2
全国ベスト8

◎弓道部

《春季新潟・下越地区弓道大会
4月28日　新潟市鳥屋野
総合体育館弓道場》
・団体男子　準優勝
（40射中23中）
相田・本田・石井・小林
（裕）・田村・小林（岳）・
米田
・団体女子　4位
・個人男子　6位
相田　浩史

《平成23年新潟県高校総体
弓道大会　6月4日～6日
新津地域学園弓道場》
・団体男子　第3位
相田・石井・田村・米田・
高槻・渡邊・楠・山田
・団体女子　第4位
柴田・石井・伊丹・遠藤・
小山・藤木・丸山・増田
・個人女子
第4位　増田　茜
団体男子北信越大会出場

《第41回北信越高等学校
弓道大会　6月17日～19日
石川県立武道館弓道場》
・団体男子
ベスト8

予選　40射24中　通過
決勝トーナメント
準々決勝　対　長野日大
13―14　負
相田・石井・高槻・田村
・米田・渡邊・楠

◎**テニス部**
男子
《春季下越地区テニス大会
4月27日～4月28日　新発田市
五十公野テニスコート》
・ダブルス
ベスト8　畠・右近
・シングルス
ベスト8　畠　元太
山田　裕介
ベスト16　野村　連
右近　明人

《平成23年新潟県総体テニス大会
6月3日～5日　南魚沼市
大原運動公園テニスコート》
・団体戦
2回戦　対　長岡大手
2―1　勝
3回戦　対　小出高校
1―2　負
ベスト16

《下越地区高校新進テニス大会
8月1日～2日　新発田市
五十公野テニスコート》
男子
・ダブルス
第3位　右近・高橋組
第3位　皆川・亀村組
・シングルス
ベスト8　右近　明人
ベスト16　亀村　遼

《全国選抜高校テニス大会
一次予選　8月22日～23日
新潟市庭球場》
2回戦　対　新潟南
4―1
3回戦　対　新潟
2―3
ベスト8
県大会進出

女子
《春季下越地区テニス大会
4月27日～4月28日　胎内市
国際交流公園テニスコート》
・ダブルス
優勝　五十嵐・齋藤
・シングルス
優勝　五十嵐理紗
ベスト16　齋藤　菜央

《全日本ジュニアテニス選手権
新潟県予選　5月14、15日
新潟市庭球場》
・シングルス
ベスト16　五十嵐理紗

《平成23年新潟県総体テニス大会
6月3日～5日　南魚沼市
大原運動公園テニスコート》
・団体戦
2回戦　対　八海高校
2―1　勝
3回戦　対　新潟東
2―0　勝
準々決勝　対　高田高校
0―2　負
ベスト8
・シングルス
ベスト16　五十嵐理紗

《下越地区高校新進テニス大会
8月1日～2日　新発田市
五十公野テニスコート》
・ダブルス
ベスト4　五十嵐・早川
ベスト16　遠藤・吉田
・シングルス
優勝　五十嵐理紗
ベスト16　早川　舞
遠藤　綾香
ベスト32　坂上　楓佳
本田　史佳

《全国選抜高校テニス大会
一次予選　8月22日～23日
新潟市庭球場》
ベスト8
県大会出場

◎**バドミントン部**
男子
《春季新潟地区
バドミントン大会　5月6、7日
新潟県立西川竹園高校》
・ダブルス
阿部・高橋　3回戦敗退
木村・益川　3回戦敗退

《新潟県バドミントン競技大会
5月27日～29日
阿賀野市ささかみ体育館》
・学校対抗
2回戦　対　阿賀野高校
3―2　勝
3回戦　対　相川高校
1―3　負
ベスト32

《第211回新潟支部
B・C級大会　8月19日
五泉市総合会館ホール》
男子B級
・シングルス
第3位　阿部　惇朗

◎**水泳部**
《春季新潟・下越地区水泳大会
5月25日
メイワサンピアプール（赤塚）》
男子
・200Mバタフライ
第1位　渡部　匠
・400M自由形
第1位　渡部　匠
・800Mリレー
第3位
柳・中山・加賀谷・阿部
女子
・50M自由形
第1位　渡辺　愛理
・200M個人メドレー
第1位　渡辺　愛理

《新潟県水泳競技大会
6月17日～19日
上越市民プール》
男子
・400M自由形
第2位　渡部　匠
・200Mバタフライ
第2位　渡部　匠
女子
・50M自由形
第3位　渡辺　愛理
・200M個人メドレー
第4位　渡辺　愛理

《北信越水泳競技大会
7月22日～7月24日
長野運動公園総合市民プール》
男子
・200M　バタフライ
第7位
女子
・50M自由形　第8位
・200M個人メドレー
第8位

◎**ハンドボール部**
《平成23年度春季ハンドボール大会
4月23～4月24日　新潟江南高校》
1回戦　対　巻
45―22　勝
2回戦　対　柏崎
10―32　負
3位決定戦　対　長岡大手
23―32　負
第4位

《平成23年度県総体ハンドボール大会
6月4日～5日　ラピカ（刈羽郡）》
1回戦　対　巻高校
36―18　勝
準決勝　対　柏崎工業
17―31　負
3位決定戦　対　長岡大手
22―17　勝
第3位
北信越大会出場

《平成23年度北信越総体第47回北信越
ハンドボール大会　6月17日～19日
柏崎市総合体育館》
1回戦　対　小松工業
11―26　負

◎**バスケットボール部**
《平成23年度総体バスケットボール大会
6月2日～6月5日　三条市栄体育館》
男子
対　高田農業　勝
対　新発田南　負
ベスト32

◎**相撲部**
《春季地区相撲競技大会
5月7日　県立高田農業高校》
・軽量級
第3位　佐々木悠介

《平成23年度全国高等学校体育大会
新潟県予選相撲競技大会　6月4日
新潟県立海洋高等学校》
個人
・体重別80kg未満級
第1位　佐々木悠介

《第6回全日本ジュニア体重別相撲
選手権北信越ブロック予選会
6月18日　富山県体育協会相撲場》
5人中第4位　佐々木悠介

◎**少林寺拳法部**
《第38回全国高校少林寺拳法大会
7月29日～30日
香川県少林寺拳法連盟本部》
決勝進出
第14位（90～100名中）

◎ダンス部
《平成23年度新潟県総体兼全日本ダンスフェスティバル予選会 6月4日～5日 新発田市民文化会館》
優秀賞（2位相当）
《第24回全国高校・大学ダンスフェスティバル 8月7日～8月10日 神戸文化ホール》
予選通過 入選
決選 入賞無し

【文化部】
◎将棋部
《新潟県高等学校文化連盟将棋大会 5月7日 新潟向陽高等学校》
予選 渡辺 敦史 2勝1敗 決勝トーナメントへ
決勝トーナメント 2回戦敗退 ベスト8

◎囲碁部
《新潟県高等学校文化連盟囲碁大会 5月21日～22日 新潟高等学校》
・男子団体 第3位
・女子団体 第1位
女子は2つの全国大会に出場
・全国高校囲碁選手権（7月東京）
桑野 有子、橋本 真帆 永塚未知流
・全国高校総合文化祭（8月福島）
橋本 真帆、永塚未知流

◎写真部
《県高文連写真専門部第15回撮影大会 6月10日～11日 新潟会館、ユニゾンプラザ》
・フィルムの部
入選 伊藤 春菜
・デジタルの部
特選 小杉啓太郎
奨励賞 五十嵐美桜
入選 原 悠輔 渡辺 敦史

◎放送部
《第58回NHK杯全国放送コンテスト新潟県大会兼第52回新潟県高校放送コンテスト 6月16日 新潟市音楽文化会館》
・アナウンス部門
第2位 関口 若菜
第3位 松井 怜子
第6位 高井ありす
・朗読部門
第1位 小柳 芽衣
第2位 石山 史奈
第5位 熊倉 舞美
第6位 関根 悠
奨励賞 見尾田 歩
・テレビドキュメント部門
第4位 林 純平 清野小太郎
・創作ラジオドラマ部門
第1位 宇佐見明子 高橋 涼香 清水 郁弥
以上の生徒及び作品は7月9日、10日に行われる第58回NHK杯全国放送コンテスト・準々決勝に出場（奨励賞を除く）
《NHK杯全国高校放送コンテスト 7月26日～28日 NHKホール等》
・朗読部門
準決勝進出
小柳 芽衣（5904人中60位相当）

◎吹奏楽部
《第52回新潟県吹奏楽コンクール（高校Bの部）8月2日 新潟テルサ》
金賞（34校中2位）
西関東吹奏楽コンクールへの出場権獲得）

◎生物部
《日本生物学オリンピック全国予選大会 8月18日～21日 広島大学理学部》
銅メダル獲得
（本選参加80人中40位以内・地方予選2453人中80位以内が本選に出場）

全国大会への道

陸上競技部

陸上競技部部長 山本雄翔

本陸上競技部は毎年、県、北信越でもトップクラスのインターハイ出場人数を誇り、今年も13名の部員が厳しい戦いを勝ち抜きインターハイの出場権を得ることができました。今年の開催地は岩手県ということで、3月の震災の影響で開催自体が危ぶまれていました。震災の被害が未だに残っているにも関わらず、大会を開催していただけることに私たちは感謝の気持ちを持ち、日々の練習に励んできました。

昨年はシーズンを通して全国大会入賞が無しと大変悔しい思いをしました。今年はその悔しさを発奮材料に県、北信越と昨年を上回る結果を残し、インターハイに臨みました。しかし、全国の壁は厚く、入賞の可能性がある種目もありましたが、5日間の大会の4日目まで全て予選落ちという結果でした。ですが、今年のチームはマイナス思考になりがちなこの状況でも暗いムードになることはなく、リッラクスした明るいムードで最終日の選手を送り出すことができました。新潟から駆けつけてくれた応援団の大声援も後押しし、その結果、男子円盤投で5位入賞という成績を収めることができました。この入賞はまさにチームで勝ち取ったものだと思います。

インターハイはやはり

平成23年度 新潟明訓高等学校陸上競技部集合写真
（東北電力ビッグスワンスタジアム）

厳しい舞台であり、持っている力を出し切ることは容易ではありません。しかし、来年は新潟での開催ということで、後輩たちには地元の声援を力に大舞台で主役を演じてほしいと思います。

最後に私たちが陸上競技に取り組むにあたり、教え導いてくださった金子先生、深瀧先生をはじめとする顧問の先生方、支えて下さった保護者の皆様、またお世話になった多くの皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

放送部

小柳芽依

私は七月にNHK杯全国放送コンテストの朗読部門に出場しました。残念ながら震災の影響により部員全員で東京に行くことができなかったのですが、最後の大会ということもあり、今までこの部活で学んできたものを全て出し切ることができました。この大会に出場できたのは一緒に部活をしてきた仲間、顧問の先生方、指導していただいた講師の方々の支えがあったからだと思っています。本当にありがとうございました。

第58回NHK 全国全国高校放送コンテスト　決勝大会

写真部

全国高等学校総合文化祭 福島大会に参加して

写真部は8月3日～5日まで福島県会津若松市で行われた第35回全国高等学校総合文化祭福島大会の写真部門に部員7名、顧問2名で参加してきました。今年の福島大会は、3月の東日本大震災と福島第一原発事故の影響で開催されるかどうかが危ぶまれていましたが、5月中旬にようやく可能な範囲での実施が決定しました。写真部門は会津若松市が会場だったため、ほぼ当初の計画通りに実施されました。部員は全国から出品されてきた写真に大いに刺激を受け、大内宿での撮影会では夢中でシャッターを切り、写真甲子園の審査委員長立木義浩氏の講演に感銘を受け、充実した三日間を過ごしました。出品作品は入賞することはできませんでしたが、全国の高校写真部員と交流し、これからの写真部活動に意欲を膨らませることのできた全国大会でした。

第35回全国高等学校総合文化祭福島大会

囲碁部

2年生にとっては二回目、1年生にとっては初めての全国大会でした。昨年と同じように、勝つことよりも、棋力のアップと囲碁を楽しむことを第一に考え、試合に臨みました。

その結果、団体戦では全国大会で一勝することができました。1年経って自分たちが成長したことを、少しでも感じることができて、嬉しかったです。

今回の経験を活かし、これからも頑張っていきたいと思います。

第35回文部科学大臣杯　全国高校囲碁選手権大会

終身会費納入者御芳名（敬称略）

平成二十三年八月三十一日現在

平成23年卒 全日制62回

1組（30名）

飯村 寿彰
石津 剛男
伊藤 健
稲村 有基
榎並 旺子
遠藤 駿人
大石 眞由子
大湊 右恭
尾崎 紫乃
門野 新奈
金澤 李花子
木村 汐里
栗原 奈々子
小池 優佳
小林 麻由
小谷野 武
佐藤 観月
高井 義彦
高野 舜正
高橋 香織
長澤 栞
中山 侑
成田 智己
星野 桃子
本田 恭之
本間 優
松田 瑛里子
宮下 瑞生
村山 健太
吉田 春奈

2組（40名）

安澤 優子
池 龍斗
今井 綾香
今井 達也
内山 恵佑
大石 梢子
大村 浩之
岡村 麻以
小原 麓未
笠原 胡桃
金子 寛
桑原 寛奈
小林 麻衣
齊藤 貴久
齊藤 直也
齊藤 理央
佐藤 安采美
下井 彬子
高地 諒
高橋 郁乃
髙橋 哲平
田邊 滉太郎
寺本 香織
長川 立
中野 佑子
二平 直樹
橋本 綾子
平澤 涼
藤崎 佳穂
古川 玲
保科 達郎
堀 琴美
堀内 慎太郎
前林 優花
松本 駿
宮尾 香子
本永 悠人
桃沢 健輔
渡辺 亜紀
渡邉 有美子

3組（41名）

阿部 真由子
天谷 遼太
今井 理佳子
生川 皓一
大川原 巧実
大滝 昌弥
岡田 舜
小川 晃平
小川 司
小熊 浩子
織田 登夢
亀谷 貴仁
川上 奏子
木澤 菜穂子
北山 朋生
木伏 竜輝
倉井 良輔
近藤 瞳
齊藤 寛章
佐々木 まい
佐藤 彩香
佐藤 拓海
白井 有紀
新保 友梨
田巻 凌雲
中川 陽葉
中川 晴菜
中澤 実希
中宮 稜治
中村 友洋
長谷川 理子
樋口 俊介
堀口 理紗
本間 悠里
松田 航季
宮島 悠夏
深山 大樹
八巻 はるか
山本 なるみ
吉井 美穂
渡邉 紗英

4組（41名）

相澤 知秀
石本 淳視
板垣 拓磨
伊丹 慶輔
猪股 玲子
今井 結貴
上田 浩史
大沼 千晃
小野塚 高大
笠原 拓実
片山 博雅
勝山 皓平
加藤 恵理
桑原 諒
小林 弘樹
小林 勇太朗
佐藤 敬太
志賀 紀明
治部田 幸
菅原 裕弥
鈴木 伸輔
清野 大二郎
高原 伸平
竹村 舟
只野 朋佳
田村 亮介
中本 浩太郎
南雲 光
西山 徳
藤井 亮
藤野 雄一
堀 紀美子
本間 悠哉
松沢 研
三津野 太雅
宮田 恵理
諸橋 彩香
山崎 幹子
山本 紗瑛
吉田 健人
渡邉 伸

5組（44名）

井岡 拡己
池田 一茂
石川 慧
石崎 悠
板垣 智也
井上 貴寛
大塩 和朗
大田 醇
大津 祐子
金山 桃子
柄澤 槇
川瀬 奈菜香
神田 健太
小出 佑紀
小林 慶大
近藤 和浩
近藤 加奈恵
酒井 優
佐野 一至
清水 希帆子
神保 祥太
多賀 貢
竹石 駿希
田村 昌大
中沢 史哉
中村 亮
中村 俊貴
西山 尚志
羽田 夏未
花岡 龍太郎
波間 一太
樋口 敦紀
樗澤 慎吾
本間 圭輔
町屋 章吾
松井 智哉
松浦 柊太朗
間藤 諒
美寺 拓真
八木野 脩太
山本 咲
山本 英晶
横山 大佑
渡辺 真央

6組（45名）

相沢 航
朝妻 尚子
東 遼
阿部 友香
阿部 伸久
五十嵐 佳世
五十嵐 大貴
石川 由衣
石田 啓樹
伊藤 伎沙知
大倉 寛史
大澤 舞緒
大島 康佑
大嶋 岳
小川 賢亮
小川 千尋
片山 のぞみ
唐沢 愛里
菊地 亮平
木滑 博美
桑原 邑奈
小林 泰斗
小林 裕貴
小林 李子
牛坊 結
小松原 隼人
近藤 咲菜
齊藤 幸代
佐藤 拓也
三膳 悠人
渋川 伸也
島原 成美
鈴木 優洋
相馬 裕佳
高橋 純香
瀧澤 育美
田邊 倫子
中嶋 瞭
那田 賢汰
野崎 碧
原 理恵
藤井 海渡
古川 ちひろ
村井 琴恵
吉橋 英治

7組（45名）

青木 涼輔
安藤 央
飯島 陵
磯田 剛志
伊藤 紗也加
伊藤 駿
井上 唯
猪俣 愛
入山 薫
上野 貴寛
大野 美寿々
岡田 樹
小熊 史也
貝瀬 麻衣
金子 真紀
川田 涼介
小島 光介
小林 秀太
小林 尚登
櫻井 謙大
品田 宇彦
島岡 響子
島影 咲織
菅原 茉莉乃
菅原 理沙
杉村 美咲
平 響
田島 圭帆織
田村 真弓
津野 公輔
坪川 礼実
東條 眞大
中村 一誠
根津 彩音
野中 哲史
長谷川 直
畑野 由佳
福住 萌
藤木 万理
本間 爽太郎
真島 健
山崎 あや美
山本 志穂実
横尾 美香子
吉川 竜馬

8組（34名）

安藤 美咲
五十嵐 萌美
五十嵐 悠亮
江部 力彦
遠藤 崇
大塚 歩
大西 穂乃佳
小口 まなみ
桂澤 安奈
川上 愛咲美
北原 萌子
杵淵 絵理奈
後藤 安奈
佐藤 諒
高岡 祥子
高橋 愛理
田代 拓
玉井 美果
坪井 真梨
中島 敦美
早津 みずほ
平出 協子
廣田 大輔
堀内 柚希
本間 遼
丸山 芽依
宮本 海里
宮本 ふう子
村井 香代
安永 伸
山岸 朋史
渡邉 貴子
渡辺 弥生
渡邉 礼

9組（34名）

青柳 勇利
阿部 英明
阿部 弘樹
五十嵐 奎太
五十嵐 大法
五十嵐 雄太
石崎 連
岩井 もえ
大塚 朋生
大矢 真悠子
鴨田 有示
桐生 環郎
金藤 裕樹
小岩 晴樹
小林 芳彰
小平 幹太
齋藤 悠介
佐藤 貴史
佐藤 佑樹
早福 光一郎
高橋 菜々子
田中 悠一
長岡 由莉
中村 駿太
野元 梨夏
長谷川 亮輔
平島 宜典
星野 峻
本間 領太
皆川 尚輝
室岡 萌子
山口 健夫
渡邊 絢香

同窓会ホームページと交流掲示板

同窓会ではホームページを開設しています。同窓会総会のお知らせなどはホームページでお知らせ致します。ぜひ一度、同窓会ホームページをご覧ください。

また、ホームページ内に「交流掲示板」を開設しましたので、このサイトは明訓同窓生の部活、OB、OGの活動情報や同期会情報など自由な情報交換の場としてご利用下さい。

http://niigata-meikun-dousoukai.com/index.html

10組（25名）

渡辺茉莉　今井雄介　佐藤綾乃
赤塚萌子　恩田歩　佐藤圭
阿久津天邑　菅野翔　佐藤哲平
井川幸之助　小林岳　重松諒平
池田駿　小林翔真　高橋秀輔
今井雄麻　酒井絵理　高橋知佳子
櫻川俊貴　中井伸
羽田彩萌　船見洸平　松岡亜季
原周昂　真島大輝　山口健太郎

平成二十二年度 会費納入状況

◎入会金
全日制62回生　379名　三七九、〇〇〇円

◎終身会費
全日制62回生　379名　一、八九五、〇〇〇円

◎合計　二、二七四、〇〇〇円

今年の体育祭が行われた人工芝に改修された
サッカーグラウンド（写真中央）

会務報告

一、会議

（一）総会
平成22・10・30（土）16：00
於　ANAクラウンプラザホテル新潟

（二）常任委員会
平成23・6・27（月）18：30
於　ANAクラウンプラザホテル新潟
・常任委員改革・会員拡大についてのご協力とお願い
・平成23年度　総会開催に向けて協議
平成23・9・22（木）18：30
於　ANAクラウンプラザホテル新潟
・常任委員改革・拡大活動についての報告
・平成23年度　総会開催について協議

（三）正副会長会議
平成22・10・22（金）18：30
於　新潟会館
・平成22年度　総会開催運営について協議
平成22・11・16（木）18：30
於　新潟会館
・総会運営についての反省会
平成23・2・16（水）18：00
於　ANAクラウンプラザホテル新潟
・同窓会歓迎会及び卒業式について協議
平成23・6・6（月）18：30
於　新潟会館
・常任委員会・総会開催について協議
平成23・9・14（水）18：30
於　新潟会館
・常任委員会・総会開催について協議

二、その他

平成22・10・3（土）12：30
於　大閣閣
・関西新潟明訓会総会・懇親会が開催される
本部より大倉副会長出席、学校側より野本学校長の出席をいただく
平成22・11・14（日）12：00
於　銀座日航ホテル
・首都圏新潟明訓会総会・懇親会が開催される
本部より林・渡邊（淳）両副会長、学校側より伴理事長、野本学校長の出席をいただく
平成23・2・16（水）18：30
於　ANAクラウンプラザホテル新潟
・学校の同窓会担当教職員の方々との新年懇談会